

未来へつなぐ「しろいな風景」

普段何げなく見ている風景。いつも同じように見えるその場所は、昔とは全く違う景色になっていたり、変わらず美しいまま残されていたりします。今回の特集では、これからの未来を支える中学・高校生が、移りゆく「しろいな風景」探しに出掛けました。

【お問い合わせ先】区総務企画課広聴係 ☎861-2410

昔から見る今の風景

白石区には、区内の昔の風景を写した写真が残されています。北都中学校と札幌白陵高校の生徒4人が、昔の写真と同じ場所で今の「しろいな」を撮影しました。あらためて見た風景を昔と比べて、生徒たちは何を感じ、また、皆さんの目にはどのように映るでしょうか。



① JR白石駅

明治初期の炭鉱開発によって白石にも鉄道が通るようになり、明治36年には白石駅が誕生。水田や畑が広がっていた駅周辺は、工場や倉庫が立ち並ぶ物流拠点として発展していきました。



90年前と比べてとても発展しているのが分かり、驚きました。何十年か先にどう変化しているか、また見てみたいです。



大正10年撮影



▲北都中学校 荒川 桃佳さん

② 環状通ローズアベニュー

地下鉄東西線開通を記念して、昭和51年に環状通の中央分離帯に区の花「バラ」が植えられました。今では、21種約3千株にもなるバラが、6月から10月ごろにかけて次々に咲き誇っています。



生まれるだいぶ前から手入れされていたことを知りました。将来、もっと多くのバラが咲くようになってほしいと思います。



昭和52年撮影



▲北都中学校 佐々木 秀輔さん

